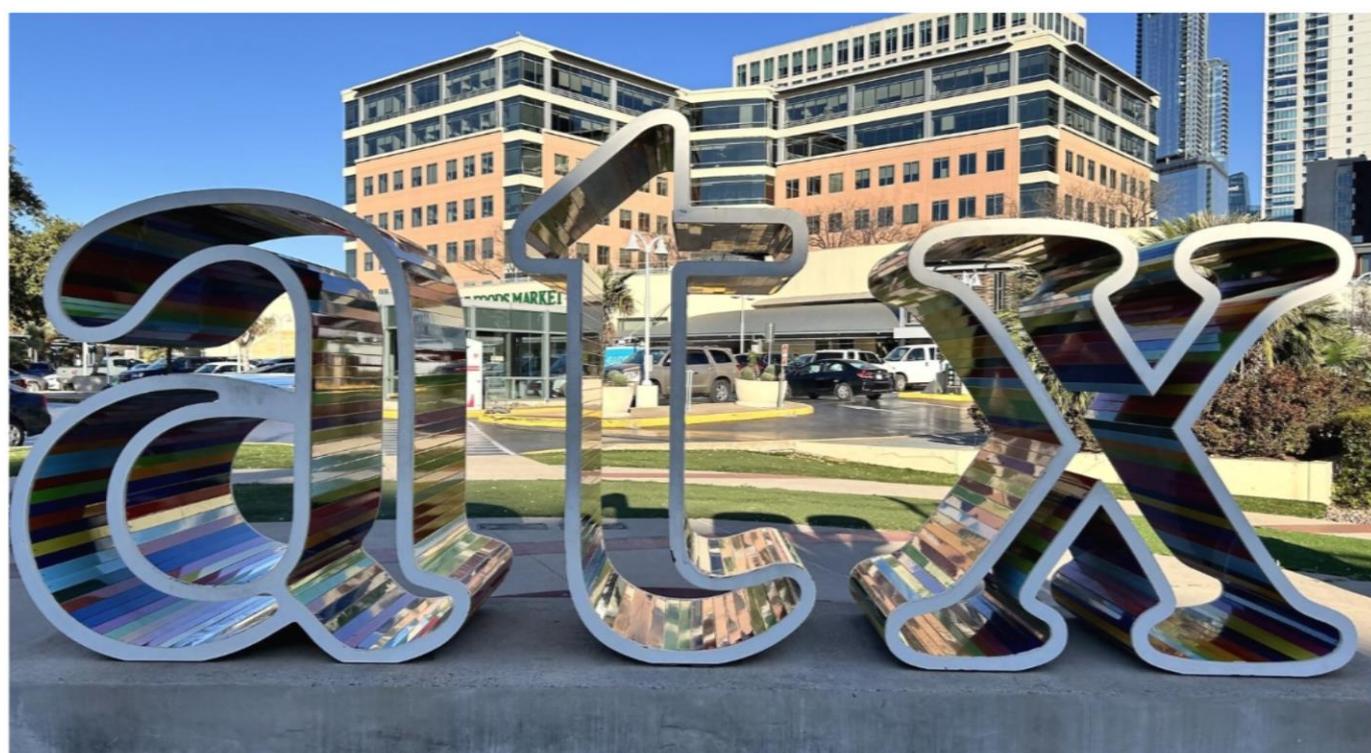


令和5年度

大分市中学生オースタン市派遣事業 報告書



事業概要 P1

現地活動スケジュール P2

現地活動内容 P4

派遣生徒報告 P15

引率者報告 P21

事業概要

■ 目的

中学生を姉妹都市のオースチン市に派遣し、海外での異文化体験、現地での交流を通じて国際的視野を広げ、将来の国際化社会を担うグローバル人材の育成を目指すとともに、本事業を通じて姉妹都市間の親善を深めていく。

■ 主催

大分市国際都市交流親善（大分市）

■ 派遣先

アメリカ合衆国テキサス州オースチン市

■ 派遣期間

令和6年2月24日（土）～3月5日（火）（9泊11日）

■ 派遣生および引率者

	氏名	中学校	学年
生徒	たかはし あんろ 高橋 杏露	向陽中学校	2
	ごとう なな 後藤 菜那	坂ノ市中学校	1
	しのはら くるみ 篠原 徠良	南大分中学校	1
	ふじしま ゆめ 藤嶋 佑芽	大分大学教育学部附属中学校	1
	まつお れいな 松尾 麗那	大分大学教育学部附属中学校	2
	たちばな かこ 立花 賀子	王子中学校	1
引率	たどころ かずや 田所 和哉	大分市企画部国際課	
	まつお ひろみ 松尾 裕美	大分市立坂ノ市中学校	

※ 学年は参加時の学年

※ 応募者数 88 名。提出書類審査による一次選考、および面接（日本語・英語）による二次選考により 6 名を選出。

現地活動スケジュール

日程	発着地	時間	移動	予定	滞在先
2/24 (土)	大分市役所集合	5:05		議会棟玄関前に集合、持ち物チェック、出発あいさつ	
	大分市役所発	5:20	専用車	大分空港へ	
	大分空港発	7:45	NH792	国内線（羽田空港へ）	
	羽田空港着	9:15			
	羽田空港発	10:25	NH114	国際線（ヒューストン空港へ） 所要時間：11 時間 55 分 ———《日付変更線》———	
	ヒューストン空港着	7:20		到着後、入国手続き	
2/25 (日)	ヒューストン空港発	10:30	UA6101	国内線（オースチン空港へ）	ホーム ステイ
	オースチン空港着	11:40	車	姉妹都市委員会による歓迎会：Easy Tiger にて 歓迎会終了後、各自ホストファミリー宅へ	
2/26 (月)	オースチン			終日ホストファミリーと過ごす	
午前		車	英語学習（TIEC） Ann Richards School の学生同席 ブーロック・テキサス州立歴史博物館を訪問		
		車	TIECにて Home slice Pizza を注文 市長への表敬訪問（オースチン市役所） ボンネル山を散策し軽食（Amy's Ice Cream）		
午後		車	英語学習（TIEC） Ann Richards School を訪問		
		徒歩	学校のカフェテリアにて アクティビティ：Austin Duck Adventures に参加 South Congress Avenue を散策		
午前		車	英語学習（TIEC） テキサス州議事堂見学		
		徒歩	South Congress Bridge 周辺を散策		
午後	車	フードコート：Barton Creek Square Mall にて Barton Creek Square Mall にてショッピング			
	車	英語学習（TIEC） Ann Richards School の学生同席 テキサス大学にてスカベンジャーハント			
2/29 (木)	午前	車	レストラン：Trudy's South Star (TEX MEX 料理) にて		
	午後	車	LASA High School での学校交流（プレゼン）		
3/1 (金)	午前	車	英語学習（TIEC） & 修了式		
	午後	車	レストラン：Torchy's Tacos にて		
	午後	車	McCallum High School での学校交流（プレゼン） トラビス郡 裁判所訪問・見学		

日程	発着地	時間	移動	予定	滞在先
3/2 (土)	オースチン	終日		終日ホストファミリーと過ごす	ホーム ステイ
3/3 (日)	オースチン	昼食	車	姉妹都市委員会による送別会 レストラン：Stubb's BBQ Gospel Brunchにて	ヒュー ストン 空港 隣接 ホテル
	オースチン空港 オースチン空港発 ヒューストン空港着	午後 16:18 17:25	車 UA685	姉妹都市委員会による空港での見送り 国内線（ヒューストン空港へ） ヒューストン空港隣接のホテルへ	
3/4 (月)	ヒューストン空港発	10:15	NH113	国際線（羽田空港へ） 所要時間：14時間05分 ———《日付変更線》———	機内
3/5 (火)	羽田空港着	15:20		到着後、入国手続き	—
	羽田空港発	19:10	NH799	国内線（大分空港へ）	
	大分空港着	20:55			
	大分市役所	22:30	専用車	大分市役所にて解散	

事前説明会、事前研修等開催日程

- 12月16日（土）： 第1回事前説明会 / 第1回事前学習会
- 1月13日（土）： 第2回事前学習会
- 2月3日（土）： 第2回事前説明会 / 第3回事前学習会
- 2月20日（火）： 出発式（大分市長、教育長訪問）
- 3月21日（木）： 帰国報告会（大分市長、教育長訪問）

■ 1日目【令和6年2月24日（土）】

早朝の寒い中、市役所に集合してパスポート等の持ち物を確認し、集まった保護者や家族へあいさつを行い、貸切バスにて大分空港へ向かった。生徒たちは、早朝に起床していることを感じさせないほど車内では非常に元気でアメリカへの出発を楽しみにしている様子であった。

大分空港に到着後、チェックインを行ったところ、何らかの不具合で出発時刻直前までチケットの発券がうまくいかず、最後は走って保安検査場を抜け搭乗ゲートに向かうなど、ハプニングで始まる派遣となった。

最終的に、大分空港で手続きができなかったヒューストン空港行きのフライトの座席指定を羽田空港で行うこととなり、到着後、航空会社の係員にアテンドいただき、第2ターミナルから第3ターミナルへバスで移動した。



ヒューストン空港にて

無事に座席指定が完了した頃にはフライトまで残り時間わずかとなっており、出国手続きをすぐに済ませ、大分空港と同様に搭乗ゲートまで走っていくなど、かなりバタバタした出国となった。

ヒューストン空港行きのフライトは約12時間と長時間であったが、生徒たちは機内エンターテインメントの洋画を見たり、機内食を楽しんだりして過ごしていた。日付変更線を越えた頃から機外が暗くなり全員が到着に備え仮眠を取った。

定刻通りにヒューストン空港に到着すると、雲一つない快晴で、全員がアメリカ到着に心を踊らせた様子であった。入国審査では、審査官によっては「訪問の目的は何ですか?」「一人で入国ですか?」など聞かれることがあったが、事前英語学習会でしっかりと準備していたため、スムーズに入国することができた。

オースチン空港へのフライトは余裕を持って搭乗でき、遅延もなく約1時間で無事に着陸した。到着ロビーでは既に今回の派遣事業にご尽力いただいたジルさんをはじめとするオースチン大分姉妹都市委員会（以下、AOSCC）のメンバーとホストファミリーが横断幕を持って歓迎してくれ、生徒たちにとって初めてのホストファミリーの対面となった。生徒たちはこれからのオースチンでの生活に目を輝かせていた様子で、簡単に自己紹介を済ませた後、受託手荷物を受け取り、ウェルカムパーティーの会場である「Easy Tiger」にそれぞれホストファミリーの車で向かった。



AOSCCによるオースチン空港での出迎え



ウェルカムパーティーの様子

ウェルカムパーティーではサンドイッチが振る舞われ、各自ホストファミリーとこれからのホームステイ生活について会話を楽しんでいた様子で、長旅で疲れた様子は全く感じられなかった。生徒全員が積極的に会話をしていたという姿勢が見受けられ、ホストファミリーからも様々な質問が生徒に投げかけられていた。

ウェルカムパーティー終盤には改めて AOSCG とホストファミリーから自己紹介があり、次いで AOSCG より記念品（オースチン市の

観光パンフレットや AOSCG オリジナルの手帳、またオースチンは日差しが強いこともありサングラス）が生徒全員に配られた。最後に引率職員2名から AOSCG とホストファミリーに対して、本事業への多大なサポートに対する感謝の言葉を述べ、各自解散となった。

■ 2日目【令和6年2月25日（日）】

終日、各自がホストファミリーと過ごす日で、全員が体調を崩すことなく充実した一日を過ごした。

■ 3日目【令和6年2月26日（月）】

ホストファミリーに、ダウンタウンにある語学学校のテキサス・インターナショナル・エデュケーション・コンソーシアム（以下、TIEC）へ送ってもらい、これから始まる5日間の英語授業の初日に臨んだ。授業は、主にクリスティーナ講師が担当し、エンジェル講師、そして AOSCG メンバーのアネルさんがサポートにあたってくれることになった。

まず簡単に自己紹介を行った後、TIEC よりオリジナルの T シャツやボトルが記念品として手渡され、その後、アイスブレイキングとして、テキサス州やオースチン市についてのクイズを楽しんだ。

生徒たちは、これからの英語学習に期待と不安が入り混じった様子であったが、TIEC スタッフの明るい雰囲気緊張が解きほぐれたようで、時折笑い声が混じるなど、授業に積極的に参加していった。



TIEC での授業の様子



博物館の入口にて

その後、アン・リチャーズ・スクールの学生6名と引率のブリュースター教諭が合流し、全員が緊張の面持ちで自己紹介を行い、誕生月ごとにペアを決め、徒歩でブーロック・テキサス州立歴史博物館（以下、歴史博物館）に向かった。

歴史博物館では自分が気に入った歴史文化財を模写したり、掲示されているテキサスのシンボルを探して書き写したりといった課題がいくつか与えられ、生徒たちはテキサス州の歴史に触れつつ、ペアで協力して課題をク

リアしていった。アン・リチャーズ・スクールの学生が過去に歴史博物館を訪れたことがあるため、率先して大分の生徒たちにテキサスの歴史を説明している姿が印象的で、見学を通して仲が深まった様子であった。

見学を終え、TIECに戻った頃には、「Home Slice Pizza」の大きなピザが用意されており、生徒たちはアメリカンなサイズに驚きつつ、アン・リチャーズ・スクールの学生と一緒にピザを楽しんだ。食事中、生徒たちは同世代ということもあり、好きな歌手や俳優の話で盛り上がり、より一層親睦を深めていた。



Home Slice Pizza をみんなで

昼食後には、引き続きアン・リチャーズ・スクールの学生とともに、市役所を訪問し、カーク・ワトソン オースチン市長（以下、オースチン市長）に訪問のあいさつを行った。全員が緊張の面持ちであったが、市長の朗らかな様子が全員の緊張を解きほぐしたようで、リラックスした面持ちで、市長になった経緯や過去の市長時代に大分市を訪問したことがあること、翌日に予定している Austin Duck Adventures が市役所庁舎からよく見えることなどを紹介していただきながら、市長と歓談することができ、通常は体験することのできない貴重な時間を過ごした。



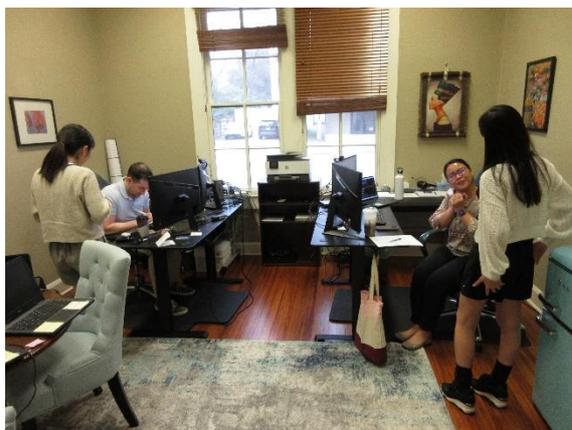
オースチン市長との集合写真

その後はオースチン市で一番標高の高いボンネル山を訪れ、同市の非常に美しい自然と発展している街の様子をパノラマで観賞した。ボンネル山の散策後、「Amy's Ice Cream」というアイスクリーム店で、オースチンで初めての店頭注文に挑戦したが、生徒たちはしっかりと店員とコミュニケーションを取ることができ、好みのフレーバーを楽しんでいた。この日は気温が25度以上とかなり暑い日であったこともあり、アイスがよりおいしく感じられるようだった。



ボンネル山にて

■ 4日目【令和6年2月27日（火）】



TIEC での授業の様子

この日はまず TIEC にて英語学習を行い、アン・リチャーズ・スクールを訪問する一日であった。英語学習では、ビンゴクイズがお題として与えられ、TIEC の施設内にいる職員に「Do you have a bicycle?」や「Can you play a musical instrument?」など質問し、誰が一番早くビンゴになるか、楽しみながら英語学習に励んだ。

アン・リチャーズ・スクールに到着後、前日にペアになった学生が出迎えてくれ、大分の生徒にオースチンのバッジをプレゼントしてくれた。生徒たちは既に打ち解けた様子で、楽しく

会話をしながら、応接室に案内され、アン・リチャーズ・スクールの校長をはじめとする教職員から歓迎のあいさつがあった。

その後、ブリュースター教諭と生徒が待つクラスルームに移動し、生徒どうしの交流に臨んだ。約30人のアン・リチャーズ・スクールの生徒が大分の生徒を待っており、まず初めに自己紹介を行ったが、オースチンに到着して、4回目の自己紹介ということもあり、生徒たちは慣れた様子で堂々と自己紹介を行った。



アン・リチャーズ・スクールでの交流



カフェテリアでの昼食

について話が弾んでいる様子であった。

別れを名残惜しそうにアン・リチャーズ・スクールの校舎を出ると AOSCC のジルさんとジュリアンさんが駐車場で待機してくれており、Austin Duck Adventures へと向かった。

このアクティビティは市内中心部およびコロラド川を周遊する水陸両用の観光バスであり、陸路からは、毎晩ライブミュージックで賑わうことで有名な 6th ストリートや、大通りのコンGRESSアベニューなどを、コロラド川に着水後は、落ち着いた雰囲気漂うウエストレイク地区をガイドの説明を聞きながら観賞した。



サウスコンGRESS地区の壁画を背景に

自己紹介の後は6グループに分かれてキャンパスツアーを行った。アン・リチャーズ・スクールの校舎は、2022年に建て替えられたとことで、非常に大きい校舎やきれいな施設・設備が目の前に広がり、生徒一同驚きを隠せない様子であった。

キャンパスツアーの後は、学校内のカフェテリアにて昼食を取った。食べたいものを自分で取って、支払いを行うということに生徒たちは文化の違いを感じたようで、昼食を食べながら生徒どうしでお互いの学校生活やクラブ活動



Austin Duck Adventuresにて

その後は、おしゃれなエリアとして人気の「サウスコンGRESS地区」にて、有名なフォトスポットになっている壁画をバックに写真を撮ったり、ギフトショップやキャンディーショップでお土産を購入したり、またカウボーイブーツショップを見学するなど、ローカルらしさを十分に味わう時間を過ごした。

■ 5日目【令和6年2月28日（水）】

この日は TIEC での授業の折り返し日となり、時間の流れが速いことを感じながら、授業に臨んだ。「Kahoot!」というクイズアプリを利用し、講師が操作するモニターに表示された問題に対して、各自のスマートフォンにて解答を行い、その正解数を競いながら英語学習に励んだ。



議事堂見学の様子

からアン・リチャーズ氏の肖像画も掲示されていた。生徒たちは、なじみのある名前に盛り上がり、楽しみながらテキサス州における政治の歴史を学んだ。

議事堂見学を終えると、AOSCC のチャールズさんとピートさんが TIEC まで迎えに来てくれ、車で「サウスコンGRESSブリッジ」付近まで行き、タウンレイク周辺（コロラド川周辺）を徒歩で散策した。道中、偶然にも、スターバックスの商業の撮影現場に遭遇し、生徒は目を輝かせて、どのような俳優がいる

その後は、課外授業として徒歩でテキサス州議会議事堂（以下、州議事堂）を訪ねた。外に出るとかなり風が強く、昨日までとは対照的に、暖かい長袖が必要になる気温で、この時期におけるオースチンの気候の特徴を感じながら目的地に向かった。厳重なセキュリティ検査を受け、堂内に入ると、内部は非常に壮観で、生徒たちは思わず息をのんだ様子であった。授業の一環で州議事堂内に掲示された肖像画を探す課題が与えられており、元テキサス州知事という功績



タウンレイクにかかる遊歩道にて



フードコートでの昼食

か興味津々の様子であった。散策後は、いよいよ生徒たちが楽しみにしていた「Barton Creek Square Mall」を訪れ、フードコートにて、各自食べたいものをオーダーして、昼食を楽しんだ。注文時の店員とのコミュニケーションも慣れてきた様子で、成長している姿が見受けられた。

その後、ショッピングの時間を迎え、予め決めておいたお店を全員で巡ったが、生徒全員がとても楽しそうに思い思いの商品を選ぶなど、買い物を満喫している様子うかがえた。

■ 6日目【令和6年2月29日（木）】



スクールバス体験

一緒に盛り上がっていた。スカベンジャーハントでは、各グループにキャンスマップと課題が与えられ、指定された場所を探して写真を撮ったり、問題の答えを探し出すために協力しながらキャンパスを散策した。

次に、Tex-Mexのレストラン「Trudy's South Star」にてアン・リチャーズ・スクールの学生とともに昼食を楽しんだ。食べ放題で好みのソースにつけて食べられるスタイルのトルティーヤチップスは目新しく、また料理によってはかなりスパイシーなものもあり、豆のペーストも好みが分かれる味であったが、全員が会話を楽しみつつ、おいしそうに料理を味わっていた。



アン・リチャーズ・スクールの学生との集合写真

TIECの授業では「Two Truths and A Lie」という、出身地や好きな歌手などのお題の中から3つを選択し、そのうち1つは嘘を混ぜ、周囲が、その嘘を当てるゲームを行った。その後、再びアン・リチャーズ・スクールの生徒6名がTIECを訪れ、同校のスクールバスに乗り、テキサス大学オースチン校（通称：UT）にてスカベンジャーハント（与えられた課題をチームで解決する活動）を行った。ドラマや映画で見たことがある黄色のスクールバスに生徒たちはとても興奮している様子で、アン・リチャーズ・スクールの学生と



UTでのスカベンジャーハント

お店を出る際に、食べきれなかった料理用の持ち帰り容器が用意されており、生徒たちは日本とは異なる料理の持ち帰り文化を実感している様子で、トルティーヤチップスがたくさん入った容器を持ち帰る生徒も見受けられた。

食後はアン・リチャーズ・スクールの生徒とのお別れの時間となり、大分市の生徒よりアン・リチャーズ・スクールの学生にプレゼントが渡され、連絡先を交換しながら別れを惜しむ様子が印象的であった。



LASA 高校でのプレゼンテーション

大分市の基本情報、文化、食事、観光地を2人1組で分担し約20分間プレゼンを行ったが、日本での練習の成果もあって、生徒6人が堂々とプレゼンテーションを行った。発表中にLASA高校の学生が随時あいづちを打ってくれて、生徒たちも緊張がほぐれたようで、発表中は笑顔も見られた。発表後の質疑応答では「血の池地獄の中には何が入っていますか？」や「おすすめ地獄はどこですか？」といった質問が投げかけられた。

プレゼン後は小グループに分かれ、趣味や学校生活など、様々な話題でフリートークを楽しんだ。LASA高校の生徒は日本や大分について非常に好奇心が旺盛で、大分の生徒も楽しそうに会話が弾んでいた。最後に校内を見学し、LASA高校での交流を終えた。

午後からは AOSCC のジルさん、ミカさんと LASA 高校を訪問し、受付でチェックインを済ませた後、日本語を学習する約 20 名の生徒との交流に臨んだ。

まずは一人ずつ自己紹介を行い、その後アイスブレイクとして、フルーツバスケットを行って、雰囲気が和らいだところで、いよいよ1回目の大分紹介のプレゼンテーションに臨んだ。



LASA 高校での集合写真

■ 7日目 [令和6年3月1日 (金)]



TIEC での集合写真

この日は TIEC での学習の最終日となり、オースチンで感じたこと、思ったことについて感想文を書き、各自発表を行った。

次に、クリスティーナ講師から大分市のプレゼンを TIEC でも行ってほしいとお願いされ 2 回目のプレゼンテーションを行った。講師からは「とても素晴らしいプレゼン！」とお褒めの言葉をいただき、生徒たちも楽しみながら発表を行っている様子であった。

その後、AOSCC のクリスティ会長やホストファミリーがTIECを訪れ、教室内で修了式が行われた。6名の生徒それぞれに修了証、そしてオースチン市からの名誉市民証が手渡され、生徒たちはTIECでの学習を名残惜しそうにしている様子であった。

そして再度プレゼンテーションをクリスティ会長やホストファミリーにも披露することになり、3回目のプレゼンを行い、TIECを後にした。

その後の有名なタコスレストラン「Torchy's Tacos」での昼食では、「けっこう辛い」という声も聞こえたが、多くの生徒がおいしそうに食べていた。またソフトドリンクバーにあったルートビアに生徒たちは興味津々の様子で、実際に飲むと「サロンパスの味がするけど、クセになってまた飲みたくなる！」などといった感想があった。



Torchy's Tacosにて



McCallum 高校での集合写真

その後 McCallum 高校にて、日本語を学ぶ生徒たちとの交流に臨んだ。まず大分の生徒より英語と日本語で簡単に自己紹介を行い、続いて同校の生徒 20 名ほどが同じように自己紹介を行った。そして生徒たちが 4 回目のプレゼンテーションを披露したところ、同校の学生が LASA 高校と同じように、適宜リアクションをとってくれたことから、緊張せずに発表できており、笑顔が見られる場面も多く、和やかな雰囲気での発表を終えた。

プレゼン後は小グループに分かれ、趣味や好きな食べ物などを語り合い、続いて McCallum 高校の生徒たちの案内により、日本とは全く雰囲気の異なる校舎を見学することができた。別れ際には連絡先を交換するなど、充実した学校交流となった。

次に、トラビス群民事家庭裁判所を訪ねた。この裁判所で勤務するジョーンズ判事が AOSCC のメンバーであることから、昨年度に引き続き訪問が実現した。この裁判所は 2022 年 12 月に建設されたばかりで、入口にて厳重な保安検査を受け、ジョーンズ判事の待つ法廷に、厳格なセキュリティスタッフ帯同のもと案内された。判事が到着すると、にこやかに各設備を案内してくれ、映画やドラマで見るような



ジョーンズ判事との集合写真

法廷に備わる最新のテクノロジーを披露してくれたり、実際に木槌（ギャベル）を叩かせてもらったり、生徒たちは普段できない経験に気持ちが高ぶっている様子であった。その後、執務室や会議室なども見学したところで、判事より本のプレゼントがあり、生徒一同感激していた。

■ 8日目【令和6年3月2日（土）】

各自、ショッピングや食事など、ホストファミリーと過ごす最後の一日を満喫した。

■ 9日目【令和6年3月3日（日）】



フェアウェルパーティーの集合写真

この日はオースチンで過ごす最終日となった。オースチンで有名な BBQ レストラン「Stubb' s BBQ Gospel Brunch」にて、AOSCCのメンバーとホストファミリーが参加しフェアウェルパーティーが行われた。

テーブルには柔らかくジューシーなステーキやサラミなど、たくさんの料理が並び、各生徒はホストファミリーと一緒にオースチンでの最後の食事を楽しんでいた。途中ゴスペルの演奏が始まり、生徒たちは、大分ではなかなか聞く機会のないゴスペルを聞き入っていた

様子であった。

終わりのあいさつとして、参加者全員が今回の交流について一言述べる場が設けられ、まずクリスティ会長、その後、各ホストファミリーと生徒、AOSCC メンバー、引率職員がそれぞれの思いを述べ、中には涙する生徒やホストファミリーの姿も見られた。

そしてオースチン空港では、見送りに来てくれた AOSCC メンバーやホストファミリーと最後の時間を過ごしなが、再度涙する生徒もあり、改めて生徒の心の中にしっかりと残ったものがあると感じられる場面であった。ヒューストン行きの飛行機内では、それぞれが思い出を語り合い、1時間のフライトはあっという間に過ぎていった。

ヒューストン空港に到着後、空港の保安検査エリア内にてピザなどの夕食を購入した。空港内には無料のトラムが走っているため、ホテルからターミナル間は快適に移動することができ、10分程度でホテルに到着し、アメリカでの最後の宿泊となった。



オースチン空港にて

■ 10日目【令和6年3月4日（月）】

朝食後、ホテルをチェックアウトして、ANAのカウンターへ向かった。到着すると、ANAヒューストン支店長の杉本様が丁寧に迎えてくださり、無事にチェックイン、手荷物の受託手続きを終えることができた。さらに杉本様のご厚意でANAのバックオフィスを見学させていただき、普段はなかなか見る機会のない航空会社のバックオフィスに生徒全員、胸を躍らせながら、ANAの仕事の流儀等についての説明に耳を傾けたり、航空安全と書かれた木札の存在には驚いている様子であった。



支店長の話聞く生徒たち

セキュリティチェック後の買い物の時間では、NASAヒューストン宇宙センターがある背景から、たくさん販売されているNASAグッズなど、生徒たちは思い思いのお土産を購入していた。

杉本様は搭乗直前まで明るく気さくに生徒に接しながらサポートくださり、不安を感じることなくスムーズに出国を終えることができた。

■ 11日目【令和6年3月5日（火）】



羽田空港行きの飛行機にて

約14時間の長時間フライトを経て、羽田空港に定刻通り到着した。機内では外の景色を名残惜しそうに眺めたり、機内エンターテインメントを楽しんだり各自満喫している様子で、羽田空港に着陸すると生徒からは少し安心した表情も見られた。帰国手続きを済ませると、約3時間の国内線への乗り継ぎ時間があったため、6人全員で羽田空港ターミナルを散策し夕食を購入した。大分空港行の飛行機はバス利用での搭乗であったため、早めに搭乗ゲート付近に行き、購入した夕食を食べた。定刻通り飛行機に乗り、約1時間半のフライトを経て、大分空港に到着する頃には、生徒たちには長旅の疲れが見て取れた。

市役所までの貸切バスに荷物を詰め込んだ後、座席に座ると生徒は安堵の表情を浮かべており、道中は生徒全員が疲れ切って熟睡していたため、車内は非常に静かであった。市役所に到着し、バスを降りると、たくさんの保護者や家族に迎えられ、全員が胸をなでおろしたように感じられた。様々な方々に支えられ、多くを学び、たくさんの経験を積むことができ、長いようであつという間の充実した9泊11日間であった。

オースチンで学んだこと

向陽中学校 2年 高橋 杏露

私は、現地の人とたくさん会話することを目標にこの事業に参加しました。やはりネイティブの英語はとても速くて、はじめは聞き取れないことも多く、緊張しました。しかし、私が聞き取れなかったところはホストファミリーがゆっくり話してくれたり、違う言い方をしてくれたりしました。また、私がスラスラ話せない時も最後まで私の話を聞いてくれたので、とても楽しく会話ができるようになりました。建物のことや食べ物のことなど私のささいな質問にも、とても丁寧に答えてくれて、ホストファミリーのおかげでオースチンのことをより、よく知ることができました。



私のオースチンで一番印象に残っていることは、人がみんなフレンドリーだったことです。初めて会った人でも、「どこから来たの?」と聞いてくれて、「とっても素敵だね!頑張って!」と言ってくれました。レストランに行ったときは、食べているときにも店員さんが「どのソースが一番好き?私はこれが一番好き!ちなみにこれとこれと一緒に食べたらおいしいよ!」などたくさん話しかけてくれました。スーパーでも私が支払いをしているときに、店員の人が、「これ、この前食べたけれどすごくおいしかったよ!」など、たくさん話しかけてくれました。みんな明るくてとっても優しくかったです。すごく素敵な文化だなと思いました。

また、私はAnn Richards Schoolと交流したことがとても楽しかったです。同じ歳の友達と英語で会話することができたのがとてもうれしかったです。校則について話をしたときは、アメリカの学校がとても自由なことに驚きました。学校のカフェテリアで昼食をとったときは、普段学校で友達と話すような会話を、英語で話すことができてうれしかったし、自信になりました。

今回の事業で、私はいろいろな人と出会って話をする楽しさや、異文化を体験する楽しさを改めて感じました。現地の人からたくさん話しかけてくれたので、思っていた以上に会話することができました。だからこそ、自分の英語がまだまだ未熟であることを痛感しました。そして、英語を勉強したいという気持ちがとても強まりました。また、今回の経験で世界の広さを実感することができました。私はまだ具体的にになりたい職業は決まっていなくても、グローバルな視点を持った大人になりたいと思います。



オースチンへ行って・・・

大分市立坂ノ市中学校 1年 後藤 菜那

私は、文化・習慣・人柄の違いを知り、日本の良さや改善点を見つけることを目標に、この事業に参加しました。実際、数えきれないほどの違いに、毎日驚かされるばかりでした。

まずはスーパーマーケット。私が行ったお店は野菜も肉もチーズもお惣菜もパンも量り売りで、必要な分だけを購入するスタイルでした。日本のように袋詰めやパック詰めしておらず、環境に配慮されているのだと感じました。次に道路。車とトラック専用、自転車とlime(電動キックボード)専用、歩行者専用と3つに分かれており、どちらが優先とか上とか下ではなくすべてのものが平等であることを感じました。



そして人柄と習慣。道で出会う人、店ですれ違う人が、初対面なのに挨拶をしたり、会話を始めたりするのです。知り合いでもないのに、私の持っているバックを「素敵だね」と褒めてくれたり、本当にフレンドリーでした！また外食やパーティーなどで食べきれなかった食事は、家に持ち帰ることができるのは当然なのですが、ホームレスの方に分けることができることを知りました。レストランのフードロスを減らせるし、さらにはCO2削減にもつながる素晴らしい習慣だと思いました。これらのことから日本の改善点が見えたように感じました。



一方、日本の良さを肌で感じることもできました。日本の道路は最高級の舗装がされていたということ。日本で車酔いをするのではないのですが、オースチンでは道路がデコボコしていて、毎回車酔いをしてしまいました。そしてトイレです。すべてというわけではないのですが、詰まることがあるのでトイレットペーパーをトイレに流せず、便器の横に置いてある大きなごみ箱に捨てる、という所もありました。日本では当たり前で考えもしなかったことが、今ではありがたく感じられています。

私のオースチン滞在中一番の思い出は、食事です。私は食べるのが好きなので、どんな食べ物に出会えるのかが楽しみの一つでした。どの食事でも美味しかったのですが、その中でも1番は、ホストファミリーの親戚とのホームパーティーで作って食べたハンバーガーです。こねたパテとベーコンを焼いて、好きな野菜(初めてアボガドを食べました!)を挟んで食べたのですが、本当に美味しく、またホストファミリーたちと会話を楽しみながらの食事は、最高に幸せな時間でした。

私はこの事業で、コミュニケーション能力の大切さも学び、完璧な英語でなくても伝えることが重要であることを実感しました。今よりももっと視野を広げるために、長期留学もしたいです。そして将来は世界中の国々の人と協力して、成し遂げられる仕事に就けるよう頑張りたいです。



ありがとう！オースチン！

大分市立南大分中学校 1年 篠原 徠良

私がこの事業に応募した主な理由は、幼少期から学んでいた英語力を試すこと、多くの人と接しコミュニケーションをとること、そして何より、広い世界を見て夢を見つけることでした。

私はオースチンで沢山の刺激を受けました。見るものすべて日本とはスケールが違いました。人も、施設も、食事も、全部が大きくて、驚きの連続でした。最も驚いたことは、人と人とのコミュニケーションの取り方が日本とは大きく違っていったことです。オースチンで出会った方々は皆とてもフレンドリーでした。ホストファミリーはもちろん、スーパーの店員、ご近所ですれ違う方々も笑顔で気軽に「It's a good day!!」と話しかけてきてくれました。私が日本のアニメが大好きだということを話すと、とても熱心に聞いてくれたり、いろんな質問をなげかけてくれたりと、会話が止まることなく、英語



でいろいろな話をすることができました。オースチンでは中学と高校、大学を訪問しました。中学では、ペアの女の子と一緒に活動しました。彼女はとても早口でしたが、私が聞き返すと、ゆっくり話すよう努めてくれました。学校見学の中ではAnn Richards Schoolの図書館が印象に残っています。滑り台が設置された広い館内には小説・漫画・絵本など多くの本が並び、オースチンの学生の学ぶ意欲がこういったところにもつながっているのだと感じました。また、裁判所も訪問

しました。実際に裁判官に会うことができ、貴重なお話を伺いました。裁判の時に着用する服、裁判官の部屋の他、裁判所の奥の部屋にある被害者・証言人専用の部屋なども見せていただきました。裁判で真実を話すことができるようにリラックスした空間を作る為いろいろな工夫がされていたことに驚きました。私はこれまで裁判や法律について学んだこともなく、それほど興味もありませんでしたが、これを機に日本の法律や裁判制度について調べてみたいと思いました。

私がこれまで学んできた英語は、思った以上に通じました。しかし、知らない単語も沢山あり、うまく伝えられないこともありました。帰国後はより一層英会話の勉強に真面目に取り組むようになりました。なぜなら、またアメリカに行きたいからです。アメリカだけではなく、他の国にも行ってみたい。そのためにはもっと勉強して知識を深めることが大切だと感じました。これはオースチンの学校でプレゼンをした時に感じたのですが、彼らは自分の意見を主張するのがとても上手で、それを相手にしっかりと伝える力がありました。日本の学校ではあまり見ない光景で自分の意見を主張する姿がとてもカッコよく見えました。この点は自分自身ですぐにでも取り入れたいと思った点です。今回の派遣を通して、ひとつの夢を見つけることができました。実現のために、一歩ずつ進んでいきたいです。貴重な体験をさせて頂き感謝しています。ありがとうございました。



Gift from Austin!

大分大学教育学部附属中学校 1年 藤嶋 佑芽

私は、海外での生活を通じて国際的な視野を広げることを目標としてこの事業に参加しました。将来は色々な国の人と関わる仕事に就きたいです。実際に異文化を肌で感じることは夢への第一歩に繋がると思いました。

また、3歳からピアノを続けているので「世界のライブミュージックの首都」といわれているオースチンの音楽にも興味がありました。実際に訪れるとアートと音楽が街に溢れ、歩いているだけでワクワクしました。一面に彩られた壁画やカラフルな建物、路上やレストランではジャズの生ライブ!クラシックピアノとは違い音楽を中心にみんなで盛り上がるようなオースチンの音楽の楽しみ方は新鮮でした。



たくさんの思い出の中で私が特に印象に残っているのは、初めて経験するホームステイです。私と年が近いお姉さんがいて、サッカーの試合観戦や買い物、料理などたくさんの時間を共に過ごしました。オースチンの日常が知れて、文化の違いをたくさん感じることができました。当たり前だと思っていた日本の魅力にも気づくことができました。例えば、オースチンではシャワーや洗濯の水はとても貴重です。バスタブがあったのでお湯をはっていかと尋ねたら、節水のためシャワーで済ますようにとされました。大分には温泉がたくさんあり、ゆっくり湯船につかれるのはとてもありがたいことなのだと再認識しました。他にも、時間の感覚や食事の量の多さも日本とは違って驚くことばかりでし

た。

最終日にはキャンプに連れて行ってもらいました。家族だけかと思ったら50人以上が集まり、交友の広さにも驚きました。オースチンの人では人との繋がりをとても大切にしているようにみえます。初対面でも笑顔で挨拶してくれて、会話中は私の目を見て理解しようとしてくれました。そして日本の文化や食べ物などたくさん興味を持ってくれました。好奇心旺盛でポジティブ!常に自分にとって楽しいことや好きなことを追求していて自信に溢れています。日本では相手の反応を見ながら発言することが多いと思いますが、オースチン人はまずコミュニケーション!私も周りの意見に左右されない強い意志と自信を身につけたいと思うようになりました。



今回の事業によって今まで知らなかった文化や人に出会い、自分の視野が広がったと感じています。オースチンで学んだことを忘れずに、日本にいても海外をそばに感じて日々を過ごしていきたいです。そしてもっと沢山のひとと触れ合い、お互いの文化や考え方を理解し、どの国もどの人も心から素晴らしいと思えるような国際的な人間になりたいです。

オースチン派遣事業を終えて

大分大学教育学部附属中学校 2年 松尾 麗那

私はこの派遣事業に2つの目標を持って参加しました。それは「自分から英語で話しかけることへの大きな壁を越える」という事と、「英語で伝え、受け取って、新しい視野の広さを得ること」です。

実際、オースチンでの11日間は人生で最も濃い日々だったように思います。目に入る街並みや店の雰囲気、ボンネル山から見た景色も、日本とは全く違いどれも新鮮でした。

はじめに感じた大きな違いは、コミュニケーションの距離の近さです。日本では初対面の人と話す時は多少の距離をとって話しますが、ウェルカムパーティーで初対面の方との握手や軽いハグを経験し、「ついにアメリカに着いたんだ！」と実感しました。



このホームステイで一番思い出に残っているのは、ホストファミリーと過ごした時間です。私が行ってみたいとお伝えしていた映画館にも連れて行ってきて、おすすめのボルダリングも経験させてもらいました。また一緒にだんご汁を作ったり、何日もかけてジグソーパズルを作ったり、夜遅くまで日本のおすすめのドラマやアメリカの学園ドラマを観て、それぞれの文化の違いに驚いたり、たくさん会話を楽しんで有意義な時間を過ごすことができました。

また、現地の学生さんたちとの交流も、とても興味深く貴重な体験でした。日本に憧れてくれている学生さんが多く、外からみた日本の魅力やイメージを聞くことができ、日本の素晴らしさを再発見でき、誇らしい気持ちになりました。日本から持って行ったお菓子のグミをみんなに食べてもらったら、目を輝かせて「新しいわ！」と言ってくれたのが嬉しかったです。

滞在の中で唯一心配だったのは食べ物でした。辛いものや、味や香りが強いものが苦手で、普段は慣れたものしか食べないのですが、せっかくの機会なのでタコスやTex-Mex料理にも挑戦してみました。食べてみるとどれも意外と美味しくて、特大サイズのピザやアイスクリームもどれも大好きになりました。



このホームステイを通して、リスニングや語彙に関しては自分の実力不足を痛感しましたが、英語で話しかけるハードルはかなり低くなり、掲げていた目標はしっかりと達成できたと感じています。新しいことにチャレンジすることへの度胸もつき、興味の幅も大きく広がって、思っていた以上の大きな成果を得ることができました。すべての経験をこれからの自分の人生の大きな糧として、さらなる努力を続けていきたいと思っています。

オースチンに行って

大分市立王子中学校 1年 立花賀子

飛行機から降りた瞬間、ふわっと甘い香りがしました。12時間のフライトでしたが、「アメリカに来たんだ」というワクワク感で疲れも吹き飛びました。私は、海外の文化を肌で感じて、日本やオースチンの良さを見つけるということを目標にしてホームステイをしました。観るものすべてが新しいし珍しく、歩いているだけでテンションが急速に上がりました。また、どこへ行っても「Hi! How are you?」と、まるで知り合いかのように話していたところにも驚きました。



3日目に、ホストファミリーのお友達家族が家に来ました。お友達家族は、私の満点ではない英語を、最後まで聞いてくれて積極的に大分の温泉や地獄のことについて質問をしてくれました。14歳の女の子と、現地の学校のことやおすすめのお店のことを話しました。



8日目に UT (The University of Texas at Austin) のバスケットボールの試合を観戦しました。大学なのに会場がとても広くて、本格的でした。熱狂的な UT ファンたちが全身全霊で応援していて、まるでライブ会場のような盛り上がり方でした。

このホームステイにおいてできるようになったことは、まず1つ目に、ネイティブの反応を瞬時にすることです。相槌を打たずに会話をするのは失礼に当たるので、アイコンタクトや表情なども意識して話しました。ホストファミリーたち独自の言い回しなども教えてもらって、その言葉を自然に使えたときはとても嬉しかったです。

次に、自分が言いたいことを、できるだけ正確に伝えることです。ホストファミリーは全く日本語を話せなかったため、理解してもらうためには、大きなジェスチャーをすることが重要でした。どのように伝えるのが良いのか戸惑いましたが、周りの明るい雰囲気助けられ、徐々に造作もなく身振り手振りができるようになりました。



私がオースチンにいて印象に残ったことは個性や自由をととても尊重していることです。今回行った学校では、メイクやピアスなどをしても良くて、おしゃれでした。日本で過ごしていたら当たり前と思うことも、海外では当たり前ではないことがあるのだと気が付きました。

私は、様々な文化に触れた中で、世の中には様々な考え方があることに改めて気づかされました。オースチンで学んだ、人と人とのつながりの大切さを忘れずに、常日頃から感謝の気持ちを持つことや、何事にも臆さずに挑戦し続けることを心に留めて生活していきたいです。また、オースチンに必ず戻りたいです！！

引率者報告

大分市企画部国際課 田所 和哉
大分市立坂ノ市中学校 松尾 裕美

この事業は30年ぶりに実施した昨年度に引き続き、第2回目の実施となり、準備段階から安心・安全を第一に、関係各所と綿密に調整を重ね、派遣生徒（以下、生徒）が不安を感じることなく参加できるよう準備をまいりました。

事前説明会では、旅行会社から渡航に関わる準備を丁寧に説明いただき、事前英語学習会では、担当の講師がホームステイや入国審査などのロールプレイを織り交ぜながら授業をしていただくなど、様々なサポートを行っていただきました。現地では、オースチン大分姉妹都市委員会（以下、姉妹都市委員会）やホストファミリーが多忙にも関わらず、仕事や家庭の調整をつけていただき、現地で生徒が安心して楽しく生活が送れるよう、入念な事前準備から現地での課外活動の企画、食事提供、送迎など多岐にわたって、心温まるおもてなしをしていただきました。また、テキサス・インターナショナル・エデュケーション・コンソーシアム

（TIEC）では、座学だけではなく、フィールドスタディや現地中学生との交流など、楽しく英語を学べるように様々な企画をしていただきました。多くの方々のご尽力があったおかげで、生徒たちはオースチンで充実した時間を過ごすことができました。心よりお礼申し上げます。

9泊11日という日程のなかで、生徒たちは様々な人と出会い、たくさんのことを吸収しました。特に同世代の現地中高生との交流は、両校の生徒にとって非常に貴重な経験となり、今後の人生における大きな刺激になったと感じています。会話をするなかで、適当な英語の表現が見つからないながらも、何とかして伝えようとしている大分の生徒と相手の目をしっかりと見て理解しようとしているオースチンの学生の姿が印象深く、うまく伝えられなかったもどかしさは、今後の英語学習のモチベーションを大きく刺激したのではないのでしょうか。

またアメリカの食や生活スタイル、インフラなど日本とは全く異なる環境で過ごすということ自体も大きな学びになり、視野が大きく広がったかと思えます。この経験が、異なる文化や価値観を理解し、多様性を受け入れる一歩になることを強く望んでおります。



帰国報告会での集合写真



事前英語学習会の様子

そして、本事業の参加にあたり、各生徒が設定した目標を、オースチンでの様々な体験を通して達成できていることを切に願うとともに、今回の経験が生徒一人一人の将来に大きな財産として残り続け、様々な場面で、この経験を還元してくれることを心から期待しております。

今後も、両市の市民が一人でも多く姉妹都市であることを誇りに思えるよう、大分市とオースチン市の友好関係の促進に努めるとともに、両市の青少年交流が継続して実施できるよう、関係各所との連携を緊密に行いながら、引き続き尽力していきたいと思います。